

ナベヅル（ツル科） 全長96センチ

珍しい野鳥が秋田にやって来た。

由利本荘市の田んぼで2羽のナベヅルが羽を休めています。日本では冬鳥として鹿児島県出水地方に定期的に飛来するが、他の地域では稀である。最初に発見したのは野鳥の会K氏で、2月3日と聞いています。秋田では滅多に見られないことから、情報を聞きつけた野鳥仲間4～5人が集まって来た。当然に大声を出したり、必要以上に近づいたりしないなどのマナーはしっかりと守っています。

広い田んぼにはまだ少し雪が残り、一面真っ白に見えます。周辺にはコハクチョウやマガンが500羽以上も羽を休めていた。



長い脚でゆっくりとマガンに近寄った。

ナベヅルは少し離れた場所からゆっくりと歩き、マガンの群れに近づいた。側には、僅かに土の匂いがするくらいの畦道があった。ここに長いクチバシを刺し込み、枯草を挟んではポイと捨てながら餌を探しているようだ。

ナベヅルの餌は木の実や根、昆虫、魚類などと言われているが、素早い行動で何を食べているのか分かりません。



体は燻けた鍋の色に似ているのでこの名が付いたと言われる。少し残念。



羽繕い中

移動する時も餌を探す時も、2羽はいつも一緒に離れることはありません。仲の良さから番ではないだろうか。

いつまでも滞在してもらいたいところですが、ナベヅルに聞いて見なければ分かりません。遅くとも農作業が始まるころには飛び去ってしまうでしょう。



畦道から枯れ草を掘り出した。



両翼を広げるとかなり大きい。